基礎科学への支持を訴える

Kavli IPMU 機構長
村山 斉 むらやま・ひとし

2013年は大きな出来事で幕を閉じました。12月17日、私は素晴らしい機会に恵まれました。安倍総理大臣、麻生財務大臣、山本科学技術政策担当大臣、その他総合科学技術会議議員、つまり日本における科学技術政策についての最高機関の前で、Kavli IPMUとSuMIRe計画の進捗状況について議論できたのです。私たちがどうやって世界中から優れた人材を惹きつけ、世界的に高いビジビリティーをもつ研究センターを築き上げ、大規模な国際研究協力を主導しているのかを聞いて、全員が大満足のようでした。

しかし、私は最後の1分でもう一つの点を力説しました。政府の出資を応用研究に集中するという世界的な趨勢の中で、日本は基礎科学に対する出資を実に良く維持しており、今後も自国の利益のためにそうであり続けるべきであるということです。磁気浮上式高速鉄道やインターネット、がん診断用のイメージング技術、GPSなどの技術的なブレイクスルーの多くは、好奇心に駆られた基礎研究およびそこでのニーズに端を発したものです。加えて、将来の我が国の地位を保つには、基礎研究において典型的なグローバルな環境を通じて訓練することができる知識人を必要とします。この点は、私たち科学者の多くには当然のように見えるのですが、繰り返し、また広範囲に、特に政策立案者に対して強調されなければなりません。私の8分間のプレゼン終了直後、総理大臣が拍手してくれましたが、どうやら総合科学技術会議では初めてのことのようです。私は大いに励まされました。

フレッド・カブリさんは基礎科学に対する真のチアリーダーでした。11月21日に死去されたとの知らせに私たちは皆大きな悲しみを覚えました。私たちの機構がKavli IPMUとなった記念式典でカブリさんが熱のこもったスピーチをされたのは、たった1年半前のことでした。カブリさんはこう言われました。「私が科学を支援するのは、好奇心と科学が長期にわたり人類の役に立つことを信ずるからであります。科学により人間はより健康な生活を送ることができるようになります。事実上、私たちが日常接するあらゆるものが基礎科学によって改良され、あるいは進歩します。私たちの生活水準全体の進歩は、科学研究の成果と密接に結びついています。」カブリさんは大いなる遺産を残されました。心からお悔やみ申し上げます。

基礎科学により宇宙の謎を探る勢いを保つためには、全方面での努力を要します。Kavi IPMUの事務スタッフは、研究以外のことに上の空の研究者全員に対して終始面倒をみてきてくれました。これは賞賛に値します。彼らの一部が、オンラインで安全訓練を行うための素晴らしいビデオを制作し、12月20日に東京大学業務改善総長賞を受賞しました。新たに着任した人たちが見れば、面白くて気が利いていて、それでいて重要な情報が漏れなく伝わります。Kavli IPMUがこの賞を受賞するのは今回が2回目で、私たちが科学だけでなく業務上でも東京大学をリードしていることがわかります。